

裾野は広く 志は高く

平成27年度 宮崎県立宮崎大宮高等学校 文科情報科通信 No.3 2015.8.27.発行

1年「探究」メディアの情報を読み解く

新聞の社説を利用した「メディアの情報を読み解く」では、複眼的思考力（特に批判的思考力）の育成を行いました。国語科の土屋先生による講義を通じて、生徒は、ある事象を多角的に捉えることの重要性について感じ取ることができたと思います。

壁新聞作成では、「TPP」をテーマに、各班で新聞づくりをしました。テーマの範囲が広いだけに、どの班も苦戦していたようですが、主体的に調べることによりTPP締結が日本に与える影響について、報道を通じて得られる情報からだけでなく深く考えることができたと思います。もう少し欲を言えば、テーマを焦点化する（TPPで課題視されている中でも、特に“コレ！”というものについて深く調べる）ことができると、より良い新聞になったと思います。

これまでの流れを受けて行われたディベート大会。テーマは「TPP参加の是非」です。今回は、「日本が参加する是非について」ではなく「TPP参加の是非について、政府が各自治体の意見を参考にしたい。宮崎県はどう考えるか？」という形で、宮崎県としての態度を問うようにしました。農業県である宮崎県にとって、TPP参加によるデメリットは大きいという考えが趨勢を占める中、諸外国との競争により、よりよい農産品の開発につながり結果的には宮崎の発展が期待できるなど、世界に目を向けた肯定側の意見も聞かれました。

学問的であろうがなかろうが、ある物事を考える（捉える）際、私たちは無意識のうちに複眼的思考力（批判的思考力を含む）を働かせているものです。1学期の「探究（メディア比較～ディベート）」を通じて、それが物事を考える上で必要な要素であり、自分の思考を高めるには欠くことができないものであることに気づくことができたと思います。



作成した壁新聞を発表



ディベートの様子

全国高校総体を終えて

私は今年の夏、二度と経験できないような経験をすることができました。宮崎代表として、大好きな弓道をインターハイという素晴らしい舞台でできたことを本当に幸せだと思いました。結果としては自分をきちんと信じることができず、ふがないものですが、これまで支えてくれた両親、先生方に感謝したいです。また今まで一緒にプレーしてくれた3年生のみんなや後輩と生まれ変わっても一緒に弓道がしたいです。みんなの応援が、私を世界一幸せな選手にしてくれました。本当にありがとうございました。



弓道部 高柳幸佳(3J)

オックスフォード大学院生・東大PEAK生との交流会を実施!

(PEAK …Programs in English at Komaba, 教養学部英語コース)

7月24日(金)、25日(土)の2日間にわたって、NPO法人「グローバルアカデミー」の協力の下、日本や日本の地域を研究している外国人学生によるプレゼンテーション(日本語)や各国の紹介(英語)を聞いたり、研究内容についてのディスカッション、大宮高校の見学や部活動体験などが行われました。今年度から始動した「SGH生徒推進部」が企画運営を行い、1年生で推進部メンバーの高妻勇希君(1I)、竹光詩歌さん(1J)の2名も、日本が抱える課題についてのプレゼンテーション(英語)等を行いました。

学生達の研究発表のテーマは、日本の貿易・政治・ベンチャー企業や国際関係など、私たち日本人でも知らないような日本の一面を切り取ったものばかりでした。流暢な日本語によるプレゼンテーションも参考になることばかりでした。質疑応答の時間には多くの質問が飛び出しました。



来校されたメンバー(国籍)

Nicolas du Bois さん(南アフリカ)

Kai Salisbury さん(イギリス、日本)

Agata Kapturkie wicz さん(ポーランド)

Martina Aleksandraviciute さん(リトアニア)

Bipasha Kaur Chatterjee さん(インド)

東京大学外国人留学生とオックスフォード大学大学院生。先日行われた彼らとの交流活動は、私たち生徒推進部はもちろん、今回参加してくれた1・2年生にとっても貴重な体験となったのではないのでしょうか。さまざまな場面で彼らには驚かされましたが、一番の驚きはやはり「教養の高さ」です。日本語をすらすら話し、その上僕たち日本人より日本のことについて知っている彼らに、自分たちとは大きく違う『何か』を感じた人も少なくないと思います。しかし、その『何か』に気づき、手に入れることこそ、SGHに認定された我々大宮生に求められている能力ではないのでしょうか。今回のこの活動はもちろん、これからの探究や日々の学校生活などを通してより高いレベルに向かっていきましょう。

SGH生徒推進部 部長 落合 匠郎(2J)

一言で言うと楽しかったです。外国の人と話すのはもともと嫌いではなく、コミュニケーションをとれたのがうれしかったです。しかし英語がわからない・スピードが速いのでついていけませんでした。先輩方がポンポン話したりしているのを見て、私も英語を頑張ろうと思いました。散策のときにいろいろ話したりできたことが一番印象に残っています。

荻原 美菜(1I)

聞きたいこと、話したいことがたくさんあっても、それを英語ではどう伝えればよいかかわからず、自分の英語力の低さを痛感した1日でした。プレゼンを一から作り、英語で発表するのはやはり大変な作業でしたが、その分自分の力を伸ばすための良い経験になりました。推進部として、もっと大勢の人に活動に参加してもらえよう、そしてこれらの経験を自分の糧としていけるよう、さらに努力をしていきたいと思ひます。

SGH生徒推進部 竹光 詩歌(1J)

今回、オックスフォード大学の留学生の研究内容や方法についての発表を聞いて多くのことを学びました。自分たちの「探究」での研究に対して、留学生の方々の研究の調査方法は一般性を失っておらず、聞き手を納得させる工夫がされていました。また、最後のディスカッションはかなり盛り上がり、日本に対する海外の方の考えを聞くいい機会でした。2時間弱の時間だったけれど、自分の語学力の無さと留学生の表現力の高さを痛感しました。この経験をこれから生かせるようにしたいです。

野海 輝人(2J)